

## 甲状腺外科草子 112

### 実用的金属製一眼レフカメラ復活！

杉野 圭三

世の中の流行り廃りは恐ろしい物である。カメラ業界も露出計の無いカメラから昭和40—50年代には自動露出（AE）カメラへと画期的進歩を遂げ、更に自動巻き上げ、デジカメとなった。現在では、デジカメもその地位をスマホに奪われ、多くのカメラ雑誌も廃刊、カメラ屋も激減している。



中古カメラブームの黄金期には金属カメラの価値が急騰し、大人気の時代もあっただけに残念だが、最近絶滅危惧種のフィルムカメラが密やかに復活しつつあるとの情報もあり、露出計内蔵の実用的金属カメラを振り返る。



Nikon F2-AS

Nikon F3 eye level

ニコン F2 フォトミック AS はフォトミック、フォトミック A へと改良された最後の機種で1977年7月発売(ボディのみ126000円)、LED 搭載のフォトミックファインダー DP-12 を装備、低輝度側の測光範囲が広がった。その後継機のニコン F3 は1980年3月発売(ボディのみ139000円)された。小生の F3 は発売中止声明を聞き、急遽購入した最終バージョンである。F3 の中央重点測光はスポット測光的性格があり使い方に慣れが必要。

ニコン F2 は金属の塊のような重厚感があり、一台は所有したい金属カメラである。両者とも多数のニコンマウントレンズが使用できるのでお勧めである。

キャノン旧 F-1 は大学卒業後に購入をためらったカメラで思い出深い。1971年3月発売(ボディのみ78000円)、1976年：マイナーチェンジされ旧 F1-N と呼ばれる。



Canon 旧 F1-N

Canon New F-1(AE)

1981年9月には New F-1 が発売された(ボディのみ149000円)。しかし、キャノンは従来の FD マウントを廃止し、EF マウントの EOS へと変更する暴挙にでた。旧キャノンユーザーは小生を含め大憤激であった。New F-1 販売終了時には在庫一掃セール(6割引き)が行われた。この一台はその時に購入したが、巻き上げ感旧 F1 が断然優れている。



Contax RTS-II

Pentax LX

コンタックス RTS-II は1982年4月発売(ボディのみ138000円)。写真家の織作峰子氏の愛用カメラと紹介され、ミーハー(古語?)の小生は即座に購入を決意した。ファインダー倍率0.87倍、電磁レリーズシャッターは触るとすぐに切れる、これが長所か短所か?当時の最新型 RTS-III より軽量で使いやすいが、Contax レンズは重く、高価なのが難点。

ペンタックス LX は旭光学が会社設立60周年記念に1980年6月発売(ボディのみ112000円)。質実剛健のよくできた機種で、特にファインダー倍率0.9倍と高く見やすいのが長所である。

重量感のある思い出の金属カメラに触れ、空シャッターを切るのも至福の一時かな!

( 一甲状腺外科医の徒然なる随想 )

2023年9月11日